

## 11期 ミュージアムへ行こう2

第8回テーマ 横尾忠則現代美術館(神戸)

Yokoo in Wonderland 横尾忠則の不思議の国

事前学習 令和5年12月7日(木)10:00~12:00

講師 兵庫県立美術館 横尾忠則現代美術館

学芸員 平林恵先生



**Yokoo in Wonderland—横尾忠則の不思議の国** 会期 2023年9月  
16日(土)~12月24日(日)

開館時間: 10:00~18:00(入場は17:30まで)

休館日 : 月曜日[ただし9月18日(月・祝)、10月9日(月・祝)は開館、9月19日(火)、10月10日(火)休館]

会場 横尾忠則現代美術館

主催 横尾忠則現代美術館([公財]兵庫県芸術文化協会)

協賛 株式会社中川ケミカル

協力 ホテルオークラ神戸

鑑賞 令和5年12月14日(木) 10:00～

阪急王子公園駅にて1班記念撮影



## 展示会

横尾作品の中の「不思議」に焦点をあて、  
現実の延長にあるもうひとつの世界をルイス  
・キャロル作の「不思議の国のアリス」及び「鏡の  
国のアリス」になぞらえて紹介していた。

第1章「不思議の国」では、地底や海中、宇宙を舞台にした作品を展示。

第2章では「鏡の国」と題して、鏡を使用した作品やミラーイメージを用いた作品が  
観る者を異世界へと誘う。

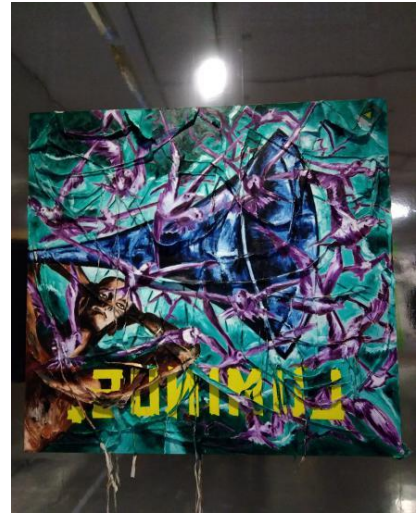
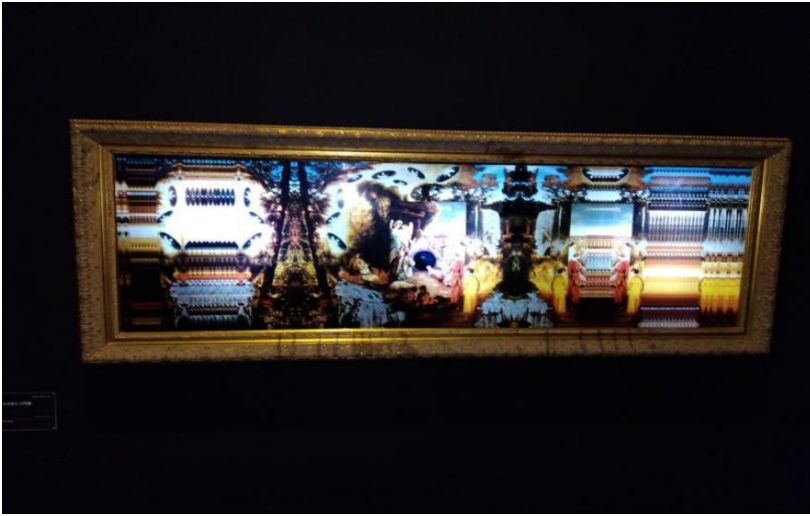
第3章「夢の国」では、横尾が見た夢をもとに描いた《夢枕》全43点を一堂に展示されて  
いた。

### 入口 展示館・展示概要の説明



## 第1章「不思議の国」

少女が穴から飛び降りる。その先には横尾氏の夢の地底王国アガルタが。そして洞窟があり、海中世界も広がっている。さらに宇宙では異星人と出会ったり、死の向こう側にある「ぶるうらんど」をのぞき見したりしている。



## 第2章「鏡の国」

鏡の向こう側へ案内してくれます。当展示会のアリスは、ジョン・テニエルの挿絵を横尾さんが日記帳表紙に模写したものだそうです。(1985年)  
アリスを描く理由は、彼曰く「自分の中の狂気を対象化するため」とのこと。鏡の破片のコラージュや鏡文字を多用し、実像と虚像が入り乱れる狂気の世界が展開されている。



### 第3章 夢の国

横尾さんは不思議な夢を見る達人でもあり、半世紀以上に渡り夢日記を続けているらしい。その夢の記憶は、現実と非現実が融合したシュルレアリスムの(超現実的)に世界を醸し出している。ヨコオ・ワールドの源泉ともなっているとされている。



三階から見えていた建物は、後で知りましたが神戸文学館とのこと。

神戸文学館ホームページより

**文学者 33 名の作品や資料を展示され、神戸の文学の歴史を学ぶことができます。**

明治 37 年(1904 年)、関西学院のチャペルとして建てられた由緒ある建築で、赤レンガ造りの外観が美しい。明治以降の神戸にゆかりのある文学者を、時代ごとのテーマに沿って紹介するほか、神戸を描いた作家たちの作品を自由に観覧できるサロンがある。イベント参加は有料。

## 感想

私自身、若いころから横尾忠則氏には興味はなかった(もちろん今もない・・・)が、今回の学芸員の平林先生が、彼の簡単な略歴から懇切丁寧に説明してくださったことで、当展示会の意図していた内容はよく理解できた。が、ひとつ一つの展示物の題名と彼の作品との乖離が大きく感じられ、観る者に訴えたいものが何であるのかはとも理解できなかった・・・。

ただ、最近の美術館は温度・湿度及び照明の明るさまで管理りされており、どこに行っても異常に照明が暗く鑑賞者に不便なところが多い。その点では当美術館は鑑賞者である者(顧客)には親切ではあったと思う。

不思議の国、鏡の国、夢の国とどこも異様な空間であったがために、3階の鏡の間の終わりに外の景色を眺められるスペースがあり、椅子にてほんのひと時安らぎの時間を設けられました。しかし、それも束の間。窓の側面に巧妙に鏡が貼り付けられており、それに気づいた途端にひえーっとそそくさとそこを後にしました。

ミュージアムに行こう 2 も、もう後半。あと二回の鑑賞です。

私は、博物館も見たいものだと感じる今日この頃です。

やなせたかし氏の言葉

『いいものに出会い、いい人にめぐり逢い、美味しいものに行合う。

だから人生の旅、楽しくて楽しくて、まだまだ辞められないね・・・』の心境です。

皆様、よいお年をお迎えください。

1 班 広報 C・H K・K K・T